

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2779101241		
法人名	医療法人 遊心会		
事業所名	リ・リブホーム(Ⅲ)		
所在地	大阪市淀川区西中島6丁目11番31号 レーベネックス6F		
自己評価作成日	平成 30年 3月 31日	評価結果市町村受理日	平成 30年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2779101241-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 4月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした環境の中で、個性を重視したケアを心がけています。外出の機会を出来るだけ多く設けたり、医療保険下で行われるデイケアに通う事で、日々の生活に生きがいや楽しみを見つけるとともに、認知症状の悪化の防止が出来る様、支援しています。法人内のクリニックとは、常に連携をとり、体調の変化にも柔軟に対応しています。家庭的な雰囲気、いつも明るく、笑いの絶えない安心した生活がおくれる環境づくりを常に考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後30年近く地域福祉に貢献してきた医療法人が運営する3ユニットのグループホームです。同法人は精神科・老年内科を専門とする診療所、訪問看護ステーション、重度認知症デイケアセンター等を運営し、医療的視点からのデイケア、24時間365日の医療連携支援を行うなど、利用者・家族が安心できる環境を整えています。幹線駅に近くコンビニや学校、公園がすぐ近くにあり、立地条件に恵まれています。ホームは建物の4・5・6階部分に位置し、屋上菜園を始め建物全体を緑化して利用者支援に活かしています。開設以来、玄関には鍵を掛けない方針を徹底し、利用者の自由な暮らしを支えています。職員は安全確認を行ったうえで「利用者一人での外出」も支援しています。利用者は明るく活発で、自らの役割を持って生き生きと生活している姿が見られます。職員はやさしく親切で、利用者の希望に添った支援をしています。家族や行政との連携も良く、学校や地域の店舗、図書館等とも連携しながら利用者の生活を豊かにする取り組みを進めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員間で話し合い作り上げた運営理念は、「こ」「け」「し」＝「個性」「傾聴」「信頼」の三本柱を軸に、笑顔で楽しく毎日が過ごせるような援助を忘れない様リビング内に掲げている。</p>	<p>ホーム独自の理念は「個性」「信頼」「傾聴」を三本柱に、「入居者様の尊厳を大切にしながら、生き生きと輝く、笑顔あふれる生活が送れるよう必要な援助をさせていただきます」としています。理念はホーム内に掲示して職員間で共有し、地域密着型サービスの意義をふまえた取り組みを進めています。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の小学校の運動会や地域の盆踊り、文化祭等、季節の行事には出来るだけ参加し、近隣との交流を図っている。又、ホームで行事を行う時には民生委員さんや社会福祉協議会の方を通じて、地域の方々にも声をかけ気軽に参加出来る様働きかけている。</p>	<p>利用者は小学校の運動会や地域の盆踊り等に参加しています。法人主催の「リ・リブ祭り」には運営推進会議メンバーである民生委員の働きかけで、地域住民の参加があり、利用者は自然に交流しています。職員と利用者は「リ・リブ掃除隊」を結成し、揃いのベストを着て、地域の掃除を行うなど地域貢献に努めています。ホーム周辺にはビルや企業も多い中で、管理者はできるだけ地域とのつながりが深まるよう取り組んでいます。</p>	<p>職員はホームを広く知ってもらえるよう、チラシ配りや張り紙を掲示する等の取り組みを企画しています。また、近隣住民がホーム行事や介護相談等に、気軽に来訪できるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人内の高齢者支援室と常に連携を図り、地域内の方々への情報発信や支援に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告だけではなく、ホーム内の行事に参加して頂く事で、より生きた意見を聞けるようにしている。会議にはスタッフも可能な限り参加し、頂いた意見をサービス向上に生かせる様に努めている。	運営推進会議はできるだけ多くの家族に参加してもらえよう行事と併せて設定しています。メンバー構成は利用者、利用者家族、地域包括支援センター職員、民生委員、区社会福祉協議会会長、ホーム職員等として、概ね年6回の開催をしています。開催内容は家族に記録で報告し、次回開催日の案内もあわせて通知しています。最近の会議ではホームから行事等の報告を行い、「家族交流の場について」や「悪質な住宅改修業者に注意」等を話題として、意見交換しています。会議で出された提案等は職員間で話し合い、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の保健福祉課とは普段から連絡を密に取り合い、紹介や相談などを通じて協力関係を築いている。	市（区）保健福祉課とは管理者を中心に電話での情報交換や窓口に出向いての相談を行う等、日頃から連携した取り組みを進めています。市の事業や会議等には積極的に参加して相互に協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束しないケアの実践として、開所以来日中の施錠はしていない。各フロアには「身体拘束ゼロに向けて」のリーフレットを常置し、職員がいつでも確認し意識出来る様にしている。職員一人一人にリーフレットを配布し、ネームプレートに入れる事で意識の向上に努めている。</p>	<p>管理者は身体拘束廃止、虐待防止の研修を行い、職員と共に拘束をしないケアを実践しています。平成30年度の研修は6月に予定しています。各フロアには「身体拘束ゼロに向けて」のリーフレットを常置して、職員の意識向上に努めています。職員はリーフレットをネームプレートに入れて共有し「拘束をしないケア」に取り組んでいます。日中は玄関のドアやエレベーターには鍵をかけず、利用者の自由な暮らしを支援しています。家族からは「鍵がかかっていないので訪問しやすい」と好評価を得ています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や主任は入居者の状態に常に注意を払っている。又、虐待を疑うような事例を発見した時は直ぐに報告、対応できるように勉強会やカンファレンスの中で話し合い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>後見人の先生方とは密に連携をとり、気軽に相談したり、教示頂いたりできる関係にある。必要に応じてご家族様からの相談にも応じている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前、入居後とも十分に時間を設け、契約内容を丁寧に説明する様努めている。 改訂時は文書で案内するとともに、電話や面会時にも説明し、了承を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情担当窓口の設置やご意見箱の利用などについて説明している。面会簿にはご意見欄も設けて活用し、職員とも気軽に話せる雰囲気作りに努めている。</p>	<p>ホームでは利用者・家族の要望や意見を大切にした運営を進めています。居室のドアには利用者の作品として書初めを展示していますが、その一例に『いっぱい文句を言ってやる』というような、利用者の思いがそのまま記載されているものがあります。利用者の主張を大切にしているホームならではの姿勢が感じられます。利用者からは趣味や食事の献立等に要望が出され、職員は利用者の声を活かした支援を進めています。家族訪問の際には職員から声かけをして、気軽に話せる機会を作っています。面会簿にも家族が意見を記入できるように工夫しています。運営推進会議をホームの行事に合わせて開催し、家族が意見を出せるようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に行う職員面談やミーティングで提案の機会を設け、反映出来るように努めている。</p>	<p>管理者は職員が意見や提案をしやすいように工夫することが、職員育成の重要なツールと考えています。定期的に行うミーティングでは職員が積極的に意見を出し合っています。ホームでは3か月に1回『リ・リブの声』とする取り組みをしています。担当の職員が課題やテーマを掲げ、それに対して全職員が自由に解決案や改善案を提出して会議で検討します。その結果、出された多くの結論がホーム運営や利用者支援に反映されています。管理者は年1回職員と面談し、悩みの解消や育成にも取り組んでいます。職員交流の場が多く設定されており、職員間のコミュニケーションは良好で、働きやすい環境が整備されています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の休み希望には可能な限り対応している。 昇給も年毎に検討し、常勤、非常勤に関わらず、様々な役割をもつことで向上心をもって働ける環境作りに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内の研修には、出来るだけ多くの職員が参加出来る様にしている。年間研修計画を作成し、院外研修も可能な限り参加の機会を設けている。研修後は職場内で報告、勉強会を開き他職員へ周知しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム連絡会や、職員勉強会に参加し、交流の機会を作っている。法人内ドクターによる勉強会の開催や他のグループホームと交流を図り、サービスの向上への取り組みに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはホームの見学や自宅訪問等をして、不安や要望を安心して相談できる関係性作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や自宅訪問時だけでなく、入所時にも不安や要望をしっかり聞き、安心して相談できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を把握し、必要に応じて多職種との連携を図りつつ、適切な支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者お一人お一人の状態や生活歴を職員間で共有し、ホームでの生活を楽しみ、出来る限り自立した生活が継続出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時には、ご本人の日々の様子を必ず伝える様にしている。 行事のある時には事前に案内し、ご家族、入居者、職員みんなで楽しめる関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所後も年賀状や暑中見舞いを送る支援をしている。ホームはいつでも気軽に訪ねて来れる雰囲気を作り、親戚や友人との関係を継続出来る様に支援している。</p>	<p>利用者は隣接するデイケアセンター（重度認知症対応）に毎日のように出かけ、友人や知人と話をする機会があります。友人、知人はホームにも訪ねてくれるので、職員はお茶等を提供し利用者とゆっくり話ができるよう支援しています。また、趣味の編み物や折り紙、生け花等の楽しみごとが続けられるように支援しています。携帯電話の使用については、利用者・家族の希望に沿って支援しています。希望があれば電話をかけたり、はがきや手紙を出す際の支援もしています。職員は読書好きな利用者が図書館を定期的にご利用できるように付き添うなど、馴染みの関係が続くように支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係性はいい時も悪い時も状況の把握に努め、共同生活が円滑に過ごせるよう支援している。定期的な食席の変更等も、関係性の広がりの為続けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の支援は勿論の事、その後も必要に応じた支援を継続し、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話やカンファレンスの中で、ホームでの生活の希望や要望を把握し、職員間で共有し、出来る限り対応できるよう努めている。	職員は日常会話の中で、利用者の意向や希望、生活歴や趣味、嗜好品等を把握し記録に残して職員間で共有し支援に活かしています。利用者が言葉で表現しにくい場合には表情やしぐさで意向を確認し、家族にも相談しながら、利用者本位の支援をしています。利用者の希望に沿って買物や図書館に出かける、安全確認を行ったうえで「利用者一人での外出」を支援するなど、細やかな対応をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には担当ケアマネとの情報交換をし、本人やご家族からお話を聞く時間をしっかりとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子は記録に残し、職員間で共有している。カンファレンスやモニタリングを定期的に行い、状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族から生活等に対する意見や希望をモニタリングしケアプランに反映させている。 職員へのモニタリングやカンファレンスで出た意見を元にアセスメントを行い、ケアプランを作成している。	職員は気付きノートやカンファレンス等で利用者の状況を細やかに把握し、家族の意向も反映して具体的で分かりやすい介護計画書を作成しています。介護計画書は家族の了承を得て職員間で共有し実践しています。介護計画書は6か月毎に見直しを行い、状況に合わせた目標の設定や変更等を行っています。カンファレンス記録、モニタリング記録、アセスメント表を残しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はリーダーが取りまとめて記録し、夜勤帯は夜勤勤務者が記録している。申し送りを確実にし、記録の確認後はサインし、情報の共有に努めている。ケアプランの更新時には、記録はモニタリングの一つとして活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携、訪問看護などを利用し体調管理や急変に迅速に対応できる環境にある。ご本人の状態や希望に応じて、通院や送迎等、必要な支援に柔軟に対応できる様に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コンビニや喫茶店、美容院等は近隣のお店を利用し、馴染みの関係が来ている。運動会や地域行事への参加も継続して行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医は法人内の医師となっているが、専門科受診は入居者やご家族の希望を優先している。</p> <p>複数の医療機関との連携もあり、適切な受診が出来る様支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。内科、精神科は利用者の希望に沿って法人内提携医師の訪問診療が受けられるようにしています。歯科、整形外科、皮膚科、眼科等の受診については、入居前からのかかりつけ医の受診を支援しています。同法人訪問看護ステーション、診療所と連携して24時間365日の医療連携支援体制を整え、利用者・家族が安心して過ごせるように支援しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や医療的処置など必要な援助を受けられるように支援している。 受診のタイミングや看護のアドバイスを気軽に相談する事も出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域医療連携室には、受診や入退院時は相談をし、安心して治療できる様に支援している。 担当医師や看護師との面談の時間を確保し、適切治療を受け早期に退院できる支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの受け入れはしていない為、終末期の対応指針を定め説明している。ホームでの生活の継続が困難な状態になった時は適切な医療機関や施設との連携をし、入居者とご家族が安心してサービスを継続出来る様支援している。	終末期の対応指針を定め、入居面談時に「看取り支援は行っていない」状況を説明して、利用者・家族の了承を得ています。利用者が重度化し、ホームでの生活の継続が困難な状態になった場合には家族の希望に沿って話し合い、医師や看護師とも相談しながら、適切な療養の場、生活の場へ移行できるよう細やかな支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内で救命救急研修を定期的実施している。ホーム内には AED と救命応急セットを備え、使用法などは研修で実践勉強している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、法人全体での避難訓練を実施している。 地域の防災訓練にも参加し、情報の共有を図っている。</p>	<p>防災マニュアルには火災、台風、地震等の対応についての記載があり、ホームではマニュアルに沿って、年2回の避難訓練を行っています。そのうち1回は消防署の協力を得て、法人全体で避難訓練を実施しています。利用者は真剣に訓練に参加し、職員は避難訓練の大切さを改めて確認しています。非常災害用の備蓄として、食料品は数量、消費期限等を表にして管理しています。備品は倉庫に常備しておりいつでも対応可能になっています。職員は地域の防災訓練に参加して、地域の人々と情報を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩として尊敬し、尊厳とプライバシーを守れるよう努めている。 ミーティングでは言葉遣いや声かけ等について話し合い、職員間で意識確認している。	職員はやさしい言葉使いで、分かりやすく説明するなど、利用者一人ひとりを尊重した対応をしています。 ミーティングや気付きノートを通じて職員間で確認し合い「不適切な対応」を行わないよう取り組んでいます。利用者の個人情報保護については職員採用時の契約事項としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者の様子などから、希望や思いを汲み取り、それを伝える事が出来るような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ディケアやレクリエーションの参加は体調を見ながら促し、入居者自身が選択出来るよう支援している。 日々の生活は入居者の希望を優先しその人らしい生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院は近隣の馴染みの所へ希望に応じて行けるよう努めている。 好みの洋服を選び、化粧をするなど、いつまでもおしゃれが楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の簡単な準備や、配膳、片付けなどその人が出来る事を無理せず一緒にしたり、外食や出前、ランチバイキングなど、楽しく食事が出来る様工夫している。	ご飯と味噌汁はホームで準備し、副食は調理済みのものを業者に依頼しています。日曜日は調理専門の職員が手作り料理を提供しており、利用者は希望するメニューを楽しむことができます。利用者は職員と共に、おしぼりの片付け、食器拭き、食器棚への収納等、一人ひとりが得意分野で自然に力を発揮しています。湯呑や箸は、自前の好みの物を使用しています。外食やランチバイキング等にも出かけて、食べたい物を注文して楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスやカロリーの計算されたものが専門業者より宅配され、摂取量を記録している。状態に合わせて水分摂取を介助し必要に応じて摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に応じた介助をプランに組み込んでいます。定期的な口腔ケアや、急なトラブルの為の通院にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続出来る様支援している。	一人ひとりの排泄パターンを確認し状況に沿ってトイレ誘導をしています。排泄の失敗が無い場合にも清潔を保てるようにオムツ等の交換を勧めています。毎朝体操の時間を設定し利用者の体調に合わせて運動を行い、朝食時には牛乳、ヨーグルト、フルーツ等を用意して、自然な排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操の時間を設け、それぞれの状態や体調に合わせて無理せず継続出来る様支援している。 又、朝食時には牛乳やヨーグルト、フルーツを用意し、自然な排便に繋がる様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は、基本の設定があるが、入居者の体調や希望に合わせて柔軟に対応出来る様努めている。 又、異性介助には配慮し、安心して入浴が楽しめるよう支援している。	利用者一人ひとりに週3回の入浴ができるように支援しています。入浴時間はその日の状況や希望に合わせて設定しています。入浴を好まれない場合には無理に勧めず、時間を見て声かけをするなどの工夫をしています。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯などを用意して楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	居室は、入居者やご家族と相談し、 安全かつ安心できる生活空間に なる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	服薬時は二人のスタッフで確認を 行い、氏名確認後の服用を徹底 している。個人処方薬ファイル は、職員がその内容、効能、副 作用を把握確認出来る様にし ていて、薬局との連携にも努 めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	法人内のディケアに通所し、毎 日の生活に生きがいと楽しみを 持てるよう支援している。 買物や、散歩、外食などにも柔 軟に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を多く持てるよう努めている。 様々な場所への外出レクリエーションを年間通して計画し、地域の行事にも出来るだけ参加できる様努めている。	近所のコンビニやスーパーへの買物、喫茶店、理髪店や美容室、図書館の利用、通院等、利用者の希望に沿って日常的な外出支援をしています。携帯電話を持参し、ホーム周辺を1人で毎日のように散歩する利用者もいます。ほとんどの利用者は週5日、同法人が運営する隣接ビルのデイケアセンター（重度認知症対応）に通い、行き帰りは散歩を兼ねての外出を楽しんでいます。天気の良い日は回り道をすることもあり、歩行訓練にもなっています。ホームでは花見、遠足、博物館見学、外食など、年間を通じて車での外出支援を企画し遠出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で預かり、必要時や希望時は自由に使える様支援している。自身で財布を持ち管理し、支払いをするなど、入居者の状態に合わせて支援出来る様努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の使用は、入居者、ご家族の希望に合わせて対応している。希望時は電話をかけた、はがきや手紙を出すなどの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには、くつろげるように配慮したソファを置き、壁の飾りや季節の花を置くなど工夫している。</p> <p>家庭的な雰囲気を大切に、入居者が安心して生活出来る様支援している。</p>	<p>ホームでは家庭的な雰囲気を大切に、利用者が安心できる共有空間づくりを心がけています。各ユニットのエレベーターを降りると、玄関前にウッドデッキがあります。季節を感じる草花の鉢が並び、利用者が休めるようにベンチを置いています。大きなガラスの扉を入ると、明るいリビングと食堂があります。食卓とイス、いくつかのソファを置いて、くつろげるスペースや図書コーナーを設けています。イスにはいろいろな模様のカバーが掛けてあり、温かみを感じられます。壁には大きな日めくりカレンダー、時計、利用者の作品、行事写真、職員紹介、本日の献立表等が掲示されています。ホーム内は清掃が行き届き、明るく清潔感があります。7階屋上には「リ・リブガーデン」を作り、季節の花や野菜を育て楽しむことができます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各階エレベーターホールにはウッドチェアを置き、煙草を吸ったり、外気に触れながら季節ごとに咲く花に水をやったりしている。リビングでは思い思いの席でゆっくりとくつろぎ、自分なりの時間を過ごせる様支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、永年使用した馴染みの家具や、使いやすい家具を入居者に合わせて配置し、安心して生活できる様支援している。	職員は利用者が安心して過ごせるように、利用者・家族と相談しながら居室作りを支援しています。居室にはベッド、クローゼット、下駄箱、トイレ、洗面台、カーテン、エアコンが備え付けられています。利用者は使い慣れた整理ダンス、机や椅子、テレビや仏壇などを持ち込んで、趣味の塗り絵や家族の写真などを飾り、居心地良く暮らせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室をはじめ、リビング、廊下、浴室、トイレには手すりを設置し、自立した安全な生活が出来る様、工夫している。居室床はクッション性のある抗菌仕様になっている。		